

多摩ボランティアセンターについて

2020 年度 多摩ボランティアセンターの活動の概要 (大崎 雄二 多摩ボランティアセンター長)	73
2020 年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計	75
2020 年度 多摩ボランティアセンター学生団体の紹介	76
2020 年度 多摩ボランティアセンターイベントカレンダー	77
2020 年度 多摩ボランティアセンター活動の報告	79

多摩ボランティアセンターの活動の概要

多摩ボランティアセンター2020 年度活動の総括

多摩ボランティアセンター長 大崎 雄二

2020 年度、多摩ボランティアセンターでも年度開始早々、新型コロナウイルス感染症の蔓延にともない、当初予定したさまざまな活動を休止、延期、変更せざるを得ない事態となった。このため、従来の活動地域の訪問はおろか、対面での活動はほとんどできず、秋学期になってからようやくオンラインでこれまでの活動を総括し、報告する活動をする事しか叶わなかった。

(1) 学生スタッフの募集

春学期開始時の恒例の新入生歓迎行事は、9 月に延期となり、20 人あまりがブースを訪れ、新たに新入生 5 人が加わった。

学生たちが自主的に始めた Twitter などでも積極的な呼びかけをおこなったが、web 上でしかボランティアセンターの存在と活動内容を知らせることができず、例年とは情報の提供や募集の方法も大きく変わる事になった。

(2) 活動

1) 地域での活動の中止、参加の自粛

東北や熊本など被災地支援のため物販という形で参加していた「堺市民センター祭り」、地域住民と学生たちとの交流の場としての「竹カフェ」、長年続けていた子どもセンターの支援、さらにはこれまで支援活動をしてきた被災地の訪問などが感染防止のため中止、あるいは参加を自粛することになった。地域貢献活動への助成金「地域にスマイルを届けよう活動助成金」についても申請がなかった。

2) これまでの活動についての報告会

① 町田市生涯学習センター「学生活動報告会【ガクマチ EXPO】ミニイベント」(2020 年 11 月 28 日 [土]) オンライン(Zoom 利用)

町田市、相模原市などで地域活動をしている各大学の 6 つの学生団体が「コロナ禍で感じている学生の思い」や「with コロナの地域活動」をテーマにトーク。学生スタッフ 2 人が参加し、うち 1 人は「学生ファシリテーター」として司会を担当。

② 第 14 回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ!」(2020 年 12 月 7 日 [月]、8 日 [火]) オンライン(多摩ボランティアセンター Facebook 利用)

町田市で活動する NPO 法人や市民、学生の団体が、12 月 4 日(金)~13 日(日)までの 10 日間、オンラインや市内での分散開催の形でワークショップやトークセッションなど、団体ごとの企画を実施。学生スタッフ 7 人が参加し、「私たちのボランティアを語る」というテーマでこれまでの東北地方などでの活動を詳しく紹介した。

③ 第 7 回大学生ボランティア活動報告会&イベント(2021 年 2 月 14 日 [日]、3 月 8 日 [月]~15 日 [月]) ボラネット多摩公式 YouTube チャンネル、イオンモール多摩平の森

2 月 14 日、多摩地区 5 大学の 11 の学生団体が作成した動画とゲストとのトークセッションが YouTube で配信され、3 月 8~15 日の 1 週間、イオンモール多摩平の森店で活動のようすを紹介するパネル展示を開催。学生スタッフ「チーム気仙沼つながり騎士(ナイト)」の代表 1 人が参加。

④ 町田市生涯学習センター 学生活動報告会【ガクマチ EXPO】「つながり発見!オンライン旅に出かけよう!」(2021 年 3 月 21 日 [日]) オンライン(Zoom 利用)、

①に続き「コロナ禍におけるボランティア活動」をメインに、各大学の 8 団体が現在の活動状況や今後の展望についてパネルディスカッションと交流を実施。学生スタッフ 4 人と小職も参加。学生 1 人は、この回でも「学生ファシリテーター」として司会を担当した。

これまでの交流を通して構築された学生間の信頼を基盤に、具体的かつ建設的な提案ができた。これまでの被災地支援の経験やそこから得られた教訓をもとに、「次は自分たちが被災者になる」ことを想定した今後の活動や連携について話が進み、地域の大学間での防災ネットワーク構築、各キャンパスが避難所として機能できるか否かなど時間が足りないくらい白熱した議論が続いた。今後に大きな期待がもてる有意義な催しであった。

3) 実地の活動「和紙キャンドルガーデン-TOHOKU2021-」(2021年3月11日[木])
東京ミッドタウン

多摩大学の学生が主催する東北の被災地からのメッセージの記された約1万個のキャンドルの展示を中心としたイベント。学生スタッフ「チーム気仙沼でつながり騎士(ナイト)」の6人が参加し、運営を支援し、活動を記録した冊子を配布した。

(3) 新年度に向けて

2020年度は、新型コロナウイルス感染症(covid-19)の大流行という想定外の未曾有の事態の中で、さまざまな活動を凍結せざるを得なくなった。多摩ボランティアセンターでは2009年の創設以来の二つの基本方針——「学生スタッフによる自律的な企画運営の推奨」と「地域との絆の強化」という原点に立ち返り、まったく新しい発想と方法で活動の再構築を考えている。

学生たちは、被災地支援のための物品開発、製品化についても引き続き試行錯誤を重ねている。以前お世話になった外部団体からも、オンライン上でプログラミングを行い、ロボットを動かしてアート作品をつくりあげる企画の提案があった。また、学内でもコラボできそうな企画がさまざまある。

再起動、再構築のスタートは、まずこのキャンパスから。学生たちとしっかり議論をしながら新しい形で活動を再開しなくてはならない。皆が初めて歩く道だ。ともに「歩きながら」、少しでも明るい方角を目指して進んで行かなければならない。

2020 年度 多摩ボランティアセンター来室者数集計

	来室者総数(人)	学生(人)	その他(人)	相談数(件)※	開室日数(日)
4月	0	0	0	0	5
5月	0	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	12
7月	9	6	3	7	21
8月	1	1	0	1	15
9月	6	4	2	4	22
10月	6	6	0	3	22
11月	10	10	0	10	18
12月	2	2	0	2	19
1月	3	3	0	3	16
2月	1	1	0	1	18
3月	4	3	1	3	23
合計	42	36	6	34	191

※相談数は来室し教職員に何らかの助言を受けた人をカウント

※来室者総数には、学生スタッフの人数は含まれていません。

多摩ボランティアセンター 学生団体の紹介 ～学生スタッフのことば～

気仙沼でつながり騎士（ナイト）（被災地支援）

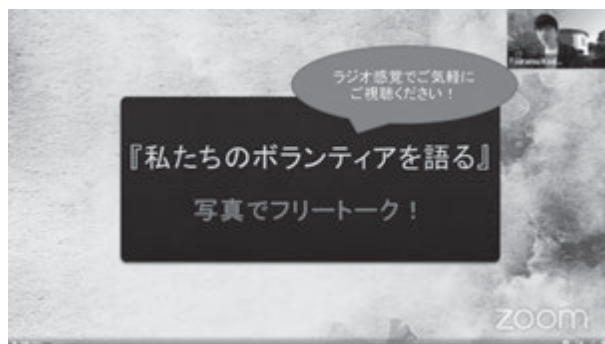
私達は、東日本大震災で被災された宮城県気仙沼市と、多摩地域で主に活動を行っています。現地活動では、震災の伝承館を訪れたり、現地の住民の方々の公演を聞いたりするなど、学び、伝える事を大切にしています。多摩地域では、防災に関するイベントやワークショップ等に参加しつつ、私達の活動とそこで学んだ事、感じた事を発信しています。

私達の団体はこれまで、コロナ禍などの影響で活動の内容も大きく変化しましたが、活動を行う上で必ず大切にしてきた事は、「気仙沼市で起きた震災の記憶と、市の魅力の発信」です。しかし、活動を行うごとに、私達は、気仙沼市について知らない事、分かっていない事も多くあるという事に気づきました。コロナ禍で現地へ活動に行く機会がなかった事も理由の一つですが、コロナ禍に行った活動の中でも、私達がこれまで行った活動とそこで感じた事の発信をしても、私達が活動を行った範囲内でしかお話などが出来なかった事を実感しました。今後は、コロナ禍の落ち着きの具合によって、課外活動の有無は変わってきますが、それでも気仙沼市の事を常に考え、出来る範囲で調べる、疑問を持つなどの事を前提とした上で、学生に出来る事は何かを考え、今必要な活動をしていきたいと思います。また今後は、これまで行ってきた活動内容にとらわれず、大学の中のボランティア組織として、これまであまり目を向けてこなかった周辺地域の子ども達や学生に向けた活動も視野に入れていきたいと思います。

2021年度 気仙沼でつながり騎士（ナイト）代表 山中 一智也



ガクマチ EXPO



まちカフェ



和紙キャンドルガーデン

2020 年度・多摩ボランティアセンター活動報告

実施日	プログラム	団体名、講師、協力先
7月18日（土）～19日（日）	第35回堺市民センター祭り	堺市民センター祭り実行委員会
8月7日（金）、28日（金）	子どもセンターばおイベント「ばわばふ」	子どもセンターばお
8月21日（金）	子どもセンターばおイベント「レザークーホルダー工作」	子どもセンターばお
9月6日（日）	子どもセンターばおイベント「ハバと遊ぼう」	子どもセンターばお
11月28日（土）	学生活動報告会【ガクマチ EXPO】ミニイベント	町田市生涯学習センター・さがまちコンソーシアム・桜美林大学・玉川大学・へりぼと・大学コンソーシアム八王子
12月7日（月）～8日（火）	第14回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」	町田市地域活動サポートオフィス・町田市市民部市民協働推進課
2月14日（日）、 3月8日（月）～15日（月）	第7回大学生ボランティア活動報告会&イベント	イオンモール多摩平の森・多摩地区5大学・日野市社会福祉協議会・Gakuvo
3月11日（木）	和紙キャンドルガーデン -TOHOKU2021-	多摩大学・東京ミッドタウン
3月21日（日）	学生活動報告会【ガクマチ EXPO】 「つながり発見！オンライン旅に出かけよう！」	町田市生涯学習センター・さがまちコンソーシアム・桜美林大学・玉川大学・へりぼと・和光大学・大学コンソーシアム八王子・MSP

概要	場所	学生参加者数	(内)留学生数	備考
被災地支援活動熊本チームによる「益城町を応援しなくっ茶！クッキー」の販売	堺市民センター			コロナ感染防止のため中止
乳児と保護者を対象とした体操や工作イベントの補助	子どもセンターばお			コロナ感染防止のため不参加
子ども向けの工作イベントの補助	子どもセンターばお			コロナ感染防止のため不参加
就学前の子どもと父親を対象とした手遊びイベントの補助	子どもセンターばお			コロナ感染防止のため不参加
主に町田・相模原地域で地域活動を行う学生団体によるオンラインでのパネルディスカッション	オンライン 町田市生涯学習センター	2	0	
オンラインによるトークセッションと活動報告	オンライン 町田市内各地域での分散開催	7	0	
他大学と合同で行う被災地支援ボランティアの活動報告会	オンライン イオンモール多摩平の森	1	0	
東北の方々のメッセージを届けるイベントの運営支援と活動紹介ブースの運営	東京ミッドタウン	6	0	
主に町田・相模原地域で地域活動を行う学生団体によるオンラインでのパネルディスカッション	オンライン 町田市生涯学習センター	4	0	

1. 学生活動報告会【ガクマチEXPO】ミニイベント

1. 日 程 2020年11月28日(土)
2. 場 所 Zoom、町田市生涯学習センター
3. 概 要

主に町田・相模原地域で地域活動を行う大学の学生団体が、オンライン生配信を利用して「コロナ禍で感じている学生の想い」や「With コロナの地域活動」をテーマにトークセッションを行った。

本学学生スタッフ2名を含め、6団体が参加した。

4. 学生参加者数 2名

5. 参加学生の感想

今回のイベントを通して、大学周辺地域で活動する多くのボランティア団体と交流することができたことをとても嬉しく感じています。今後は多摩ボランティアセンターとしても是非コラボレーションしていきたいと考えています。また、リモート続きで活動から疎遠になりつつある私たちが団体の経験を語ることで、私たちの理念や置かれている状況を改めて再認識することができました。

社会学部社会学科3年 児玉 務

私はガクマチEXPO ミニイベントに、学生団体をまとめる“学生ファシリテーター”として参加しました。イベント当日は司会をしたのですが、Zoomウェビナーを使ったため来場者の方の反応が見えず、どんな表情をして話せば良いのかと最初は緊張していました。しかし各団体のパネリストの方とパネルディスカッションを行ううちに、だんだんと緊張が解けていき、楽しくイベントを終了することができました。まだまだ改善するべきところは多々ありますが、無事にイベントが終わって良かったです。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 海老沢 真由



学生スタッフによる活動報告



トークセッション

2. 第14回町田市市民協働フェスティバル「まちカフェ！」

1. 日 程 2020年12月7日（月）～8日（火）

2. 場 所 多摩ボランティアセンター Facebook

3. 概 要

町田市で活動しているNPO法人や市民活動団体・学生団体が、12月4日（金）～13日（日）までの10日間、オンラインや市内分散開催の形でワークショップやトークセッションなど、団体ごとの企画を実施した。

多摩ボランティアセンター学生スタッフは、12月7日（月）、8日（火）の2日間、「私たちのボランティアを語る」をテーマに、オンラインによるトークセッションを行った。

4. 学生参加者数 7名

5. 参加学生の感想

初のFacebook Liveということもあり、初めはトラブルもありましたが、充実した対話を行うことができたと感じています。

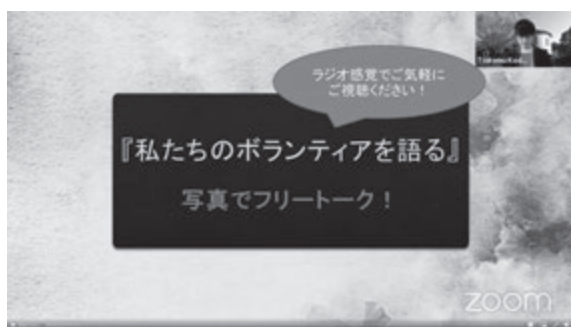
社会学部社会学科3年 児玉 務

今回オンラインで、経験したボランティアについて自由に語り合いましたが、次からはもう少し現地について魅力などを発信するのも良いかと思いました。

社会学部社会学科2年 山中 一智也

活動報告をする中で団体ごとのオリジナリティが出せた。また活動を振り返るきっかけにもなった。どのような部分が相手にとって魅力的に感じるのか、他者目線を知ることができた。視聴者のコメントに気づけない場面があったので気をつけたい。

社会学部メディア社会学科2年 今井 彩里衣



テーマ「私たちのボランティアを語る」



気仙沼の活動報告



熊本の活動報告



参加した防災イベントの紹介

3. 第7回大学生ボランティア活動報告会&イベント

1. 日 程 2021年2月14日(日)、3月8日(月)～3月15日(月)

2. 場 所 ボラネット多摩公式YouTubeチャンネル、イオンモール多摩平の森

3. 概 要

2月14日(日)に、多摩地区5大学の学生団体が作成した動画とゲストとのトークセッションがYouTubeで配信され、後日3月8日(月)～3月15日(月)の1週間、イオンモール多摩平の森にて、活動パネル展が行われた。

本学の学生スタッフ「チーム気仙沼つながり騎士(ナイト)」を含め、11団体が参加した。

4. 学生参加者数 1名

5. 参加学生の感想

被災地支援系のボランティアサークルやチームの人と、活動の継続や内容について話したり、考えを共有できるとても貴重な時間でした。現地の方とお話できたことも、モチベーションのアップにつながりました。今回参加された団体の皆様とのお話や動画をもとに、活動のあり方を考え、これからも頑張っていきたいと思いました。

社会学部社会学科2年 山中 一智也



公開した活動紹介動画



展示したパネル

4. 和紙キャンドルガーデン—TOHOKU 2021—

1. 日 程 2021年3月11日(木)

2. 場 所 東京ミッドタウン

3. 概 要

多摩大学「日本大好きプロジェクト」に所属する学生が主催する、東北3県(福島・岩手・宮城)の方々からのメッセージが書かれたキャンドルの展示や自分たちの支援活動報告を通じて、被災地の想いを広く伝えるためのイベント。宮城県気仙沼市で支援活動を行うチーム「気仙沼でつながり騎士(ナイト)」が参加し、イベントの運営支援や自分たちの活動を記録した冊子の配布などを行った。

4. 学生参加者数 6名

5. 参加学生の感想

2011年～2021年で和紙に書かれている言葉が変化していることに時の重みを感じた。2011年は「がんばろう日本」「負けるな」など力強い言葉が多かったが、2016年は「復興が進み少しずつ笑顔が戻ってきました。」など前向きな言葉も少なくなかった。最後の今年は震災とコロナを重ねたものや「忘れないで」などの風化を防ごうとする言葉が多く、改めて伝承の必要性を感じた。

社会学部メディア社会学科2年 今井 彩里衣

この催しは今回で最終回ということでしたが、企画の大学を手本として、リーダーシップや指示を出す時に必要なことを具体的に学び得たと思います。

経済学部国際経済学科2年 鈴木 響香

たくさんの方に来場していただけるイベントのスタッフの一員として活動できて思い出に残りました！

現代福祉学部福祉コミュニティ学科1年 矢野 聖悟

こんなに多くの学生が東日本大震災を支援したいと考えていること、また多くのお客様とお話する中で、東日本大震災に関心がある方がたくさんいることがわかって、本当に参加して良かったなと思いました。もっとこのような活動に参加し、気仙沼の魅力を伝えていきたいです。

社会学部メディア社会学科1年 成田 亜澄



約1万個のキャンドルに火を灯しました



自分たちのブースで活動記録冊子等を配付

5. 学生活動報告会【ガクマチEXPO】 「つながり発見！オンライン旅に出かけよう！」

1. 日 程 2021年3月21日（日）
2. 場 所 Zoom、町田市生涯学習センター

3. 概 要

主に町田・相模原地域で地域活動を行う大学の学生団体が、オンライン生配信で開催した活動報告会。前回11月28日（土）のミニイベントに引き続き、「コロナ禍におけるボランティア活動」をメインテーマに、現在の活動状況や今後の展望についてパネルディスカッションと交流会を行った。

本学学生スタッフ4名を含め、8団体が参加した。

4. 学生参加者数 4名

5. 参加学生の感想

私はガクマチEXPOに、参加団体を取りまとめる“学生ファシリテーター”として参加しました。本番当日は司会を行ったのですが、11月のミニイベントで同じく司会をした経験があったため、さほど緊張はしませんでした。それでも、本番前は視聴者の方が少なかつたらどうしよう、パネルディスカッション中は話が続きなかつたらどうしようと心配はつきなかつたです。ですが、前半のパネルディスカッションも後半の交流会も終始和やかな雰囲気でき進み、オンラインでありながらも、“つながり”を感じられたイベントになりました。このイベントに参加者のひとりとして関わったことを、とても嬉しく思っています。

現代福祉学部福祉コミュニティ学科3年 海老沢 真由

多摩ボランティアセンターは被災地支援団体として参加し、特に玉川大学太田ゼミの方々と「災害対策」の視点から今後の活動や団体間の連携について情報共有を行いました。大学間での防災ネットワークの構築や、各キャンパスの避難所としての機能を高めていく取り組みなど、私たちが被災者になることを想定した災害対策にも注力していくべきであると実感しました。

社会学部社会学科3年 児玉 務



全8団体が参加



学生スタッフの団体紹介